

学年だより

平成26年度
第2学年通信
平成26年5月30日

No. 3

肯定的な考えを

■「かも」を変えれば未来は変わる

「リストラされるかも」「給料が減るかも」……不況の中、そんな不吉な予感が頭をかすめる、という人も多いのではないのでしょうか。

こうした否定的な「かも」に囚われると、人はどんどん悲観的になってしまいます。そして、自分の仕事がうまくいかないことを、自分以外の誰かや環境のせいにしてしまう。「小泉改革のせいだ」「無能な上司のせいだ」などと責任を転嫁して、自分を守ろうとするのです。

そんな「他責」の思考習慣が、現状を変革できないビジネスマンの特徴といえるでしょう。

恐ろしいことに、誰かを責めることで自分を守っていると、不安や不満などのマイナスの感情に脳が支配され、前向きな努力を放棄してしまう。そして、悪い予感が現実のものになってしまうのです。

その一方で、「こういうときこそ、自分が活躍できるチャンスかも」と、悪条件を肯定的に捉えようとする人もいます。

そういう人は、「ダメかも」「うまくいかないかも」ではなく、「成功するかも」「できるかも」という肯定的な「かも」によって自分をコントロールして、幸せをつかむ。

要するに、「かも」の違いで未来は変わるということ。それを私は、「かもの法則」と名付けています。

人間は、自分の将来について「肯定的な錯覚をしている人」「否定的な錯覚をしている人」に二分されます。肯定的な錯覚をする人は、言うまでもなく、肯定的な「かも」で発想するタイプです。

長年にわたって、経営者やビジネスマンの能力開発に携わってきた経験から言うと、一代で上場企業をつくったような成功者は、ほぼ例外なく肯定的な錯覚をしています。

常識的に考えれば無理だと思ふようなことも、「俺ならできる」と思い込んで、本当に実現してしまう。失敗を失敗と思わない、言い換えれば、ただの“アホ”ですが、こういう人に責任転嫁という発想はありません。

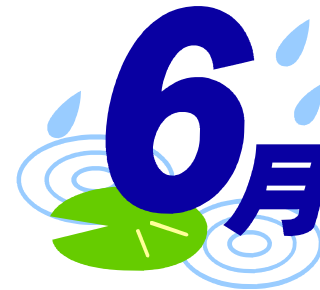
ですが、そんな成功者はほんの一握り。世の99%の人は「他責」の思考習慣

や否定的な錯覚に陥って、結果的にイメージした通りの自分になってしまう。つまり能力開発とは、いかにして肯定的錯覚、肯定的な「かも」を脳に植えつけるか、に尽きるのです。

※ビジネスマンや経営者などの言葉を、中学生・受験生に置き換えてみましょう。

☆西田文郎☆

1949年生まれ、サンリ能力開発研究所代表。ビジネス界、スポーツ界におけるイメージトレーニングの第一人者。北京オリンピックでは女子ソフトボールの金メダル獲得をサポートした。



2日(月) 教育実習開始

5日(木) 代議員会・専門委員会
諸費引落日

9日(月) 避難訓練

10日(火) 基礎・基本定着状況調査(国語, 数学, 理科, 英語, 生活)

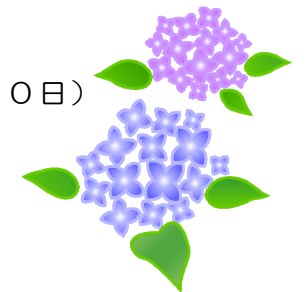
11日(水) 基礎・基本定着状況調査(英語実技)

16日(月) 諸費再引落日 オープンスクール(～20日)

17日(火) 全校朝会 テスト週間開始

24日(火)
? 前期中間テスト(9教科)

26日(木)



☆ テストに向けて

6月は、テストが続きます。しっかりと準備をしてテストに臨みましょう。テストの前後は提出物のめ切りも多くあります。提出日を確認して期限に間に合うよう準備を進めてください。また、答えを写して提出するだけでは「力」がつかえません。ワークや問題集は、テストより前に自分の力で問題を解いて提出しましょう。